



第12回川崎港トライアスロンin東扇島大会

事前準備をしっかり行い日頃の練習成果を発揮しよう 審判長 新津 桂一郎



小学1年生のキッズからオリンピックディスタンスまで、初めて参加する選手からエリート・パラ選手まで幅広いカテゴリーの選手たちが集まるこの大会。シーズン終盤を迎え、締め括りのレースにされている方も多いのではないのでしょうか。まだ参加された事のない方は、ぜひお薦めのレースです。

今大会からは、例年参加のパラエンジョイクラスの選手に加え、オリンピックディスタンスにブラインドの選手が参加しました。

大会当日は、気温23℃/水温22℃/風速6m/曇り時折激しい雨。目まぐるしく変わる気象条件で参加選手の皆さんも対応に苦慮

したのではないのでしょうか。幸い大きな事故もなく皆様のご協力のもと無事大会を終えることが出来ました。

ところで、選手の皆さんは、レース当日までにどのような準備をしていますか？ スイム/バイク/ランの用具だけでもかなりの数になりますし練習も3種目、トランジションもあります。レース当日、会場でのバイクセットやコースの下見や試走等と含めると準備することが山ほどあります。

例年スタート前やレース中に「私はどこを走ればよいか？今何周目？」等の質問をTO(Official Technicalテクニカルオフィシャル/審判員)にする選手が多数います。JTU競技規則第30条には「選手はコース及び競技環境を事前に把握し、かつ自らの責務でコースを確認し競技を行うものとする」とあります。レースに参加する上でコースやローカルルールを熟知することは選手自身の責任であることがルールに書かれています。TOも聞かれば教えてあげたいのは本心ですが、準備をしっかり行っている選手も大勢いるのです。TOは選手の皆さんが公平・安全に競技を行うことを目的にしています。競技ルールに記載がある以上、質問する選手に厳しい態度で接することも致し方ない事をご理解ください(キッズや初心者等には優しく対応していますが・・・)。

せっかく忙しい日々の中、時間を見つけて厳しい練習を重ね大会に挑んでいるのに大会要項やコースの確認が不十分で当日慌ててしまっは良い結果につながりません。日頃の練習成果を発揮するには、やはり事前準備をしっかり行いスタートラインに立つことが必要です。競技に参加する以上ルールに則りコース内容はレース当日までしっかり頭に入れて準備しておきましょう。

さて、今大会から新たな取り組みを行っています。スイムでは周回数確認用の輪ゴムを今年から太く色分けしスタート前に渡し周回を重ねるごとに一本ずつ外す方式に変更しました。選手から「わかりやすかった 周回の確認が容易になった」との感想をいただきました。また、ウェットスーツ着用義務を無くしました。サイズ不一致からの危険性を考えてのことです。しかし選手に正しい案内が出来なかったことは次回改善の余地が残りました。さらに、試泳への導線を変更、アングルバンド受取後の試泳を徹底しました。これは選手皆さんの安全を確保する上で非常に重要なことでもあります。他にも様々ありますが、今後もより良い大会にするために選手の皆さんと一緒に常にブラッシュアップしていきたいと考えています。今回、伴走者アスリート選手の参加に、当初はタンデムバイク使用やラン伴走者と並走で競技になるため、安全面から消極的でした。しかし「何事にも最初はある。受け入れるべき」との意見もあり、選手の安全を最優先に考慮することを前提とし、ランコースの一部変更、当日バイク試走を見て審判長が最終判断し参加していただくこととなりました。今後大勢のパラ選手参加が可能になればとの思いが強くなりました。どの大会もカテゴリーごとのコースや周回数が異なりTOにとって準備やオペレーションが大変で難しい大会ばかりですが、今後トライアスロンを生活の一部、生涯の楽しみとし大会に大勢の方に参加していただければTOとして最高の幸せであります。

.....